

いしかわまち

「地域の支え合い通信」

発行：社会福祉法人

石川町社会福祉協議会

石川町字松木下88

TEL 0247-26-3793

FAX 0247-57-7003

編集：生活支援コーディネーター

NO.3 発行日：2019.12.1



誰もが 住み慣れた地域で
最期までいきいきと
心豊かに暮らせる社会に向けて



本町でも支え合える地域づくりに向けて各地区で話し合いが始まっています。
誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるよう、一緒に助け合いの地域づくりを考えていきましょう。



広がる「助け合いの絆」

台風19号に伴う水害等により、被害に遭われた皆様からのお見舞い申し上げます。

今回の台風19号による大雨は、本町にも多くの被害をもたらしました。

氾濫した上流河川からの大量の流入やダムの上水により、北須川、堀田川、今出川、社川流域の広い範囲において、多くの床上や床下浸水の被害が発生しました。

予想外の大雨、避難勧告を受け、高齢者の一人暮らしの方や気になる世帯の方へ、行政区の役員さんをはじめ民生委員さんや近所さん等、多くの方の声かけや見守りが行なわれていました。

また、災害ボランティアセンターを立ち上げた際にはJC（いわき石川青年会議所）からの迅速な支援をはじめ、県内外から多くのボランティアの方に参加していただき、世代、地域を超えたつながりや人の温かさを感じ、さらに頑張る力をいただきました。

あの時地域では・・・

予想外の大雨、避難勧告…その時地域では、行政区の役員さんや民生委員さん達が、一人暮らしの高齢者や心配なところを見回り、声をかけて…。

日頃の気かけ合いや声かけ合い、身近な地域でのつながりが、災害時も大きな力になっていました。

被害状況 (広報いしかわ12月号より)

住 宅 被 害	床上、床下浸水 約 750 世帯
道路・橋梁・河川の被害	道路：路肩崩れ、路面陥没 橋梁：橋梁流失 3ヶ所 河川：護岸流失 1ヶ所
農産物・畜産関係	水稻、そ菜、畜産
要 援 護 者 等	独居高齢者・要介護者等 安否確認済
農 地 関 係	農地 (田)、農業用施設、農道
公 共 施 設 関 係	・ 社会福祉協議会 (仮事務所：保健センター) ・ 第二保育所 (第一保育所・野木沢保育所) ・ 鈴木重謙屋敷：休館

「地域のネットワーク・住民の声」

・ 行政区では、区長さんから区の役員を通して、住民の皆さんへの避難の確認と声かけをしてもらっていました。

・ 各地区の民生委員さんは、一人暮らしや気になる人の声かけや安否確認で、早い時期から動いてくれました。

・ 移動が困難な方の避難は、消防関係者のみなさんが手助けしてくれました。

・ 警察署では、一人暮らしや心配な方などを個別訪問してくれました。

・ 役場にも、一人暮らしの親や知人を心配する遠方の子どもさん達から問い合わせの電話が入りました。

表1 石川町災害ボランティアセンター活動状況

日 数	11日間
ボ ラ ン テ ィ ア 数	349名
要 請 世 帯	91世帯
対 応 件 数	91件

ボランティアは・・・

当協議会でも浸水による被害を受けたため作業が遅れていましたが、十月十六日に災害ボランティアセンターを立ち上げ、二十日から希望のあった住宅の片づけ作業、災害ゴミの積み下ろし等の作業に従事しました。

左記表1にもあるように、十月三十日の災害ボランティアセンター閉所までに、延べ349名の方がボランティアに参加(県外4名含む)、91件のボランティア活動を実施しました。

ボランティアには、学法石川高校、県立石川高校の生徒をはじめ、JC(いわき石川青年会議所)、一般ボランティア、また、町外、県外からも多くの方にご協力いただきました。

「地域福祉ネットワーク」とは

町では、平成十八年から地域福祉ネットワークづくりに取り組んできました。地域では、誰もが安心して暮らせるよう、普段から住民同士の見守りや声かけをすることで、ちょっとした変化を見逃さない地域づくりを目指しています。

さらに、行政区長や民生委員、警察署や消防署、郵便局や学校、医療機関、介護サービス事業所など関係機関のネットワークも作られ、一人暮らしの高齢者や障がい者(児)など安否確認や虐待等の早期発見などができる地域を目指しています。



高校生ボランティアは100名を超える参加でした。

災害から芽生えた助け合いの意識

住民の声

・石川町は災害に強いからと今回も自分の中では楽観視していましたが、消防団がサイレンを鳴らして何度も回ってこれていたの、とりあえず近所の人と避難所に向かいました。

まさか、こんな状況になるとも思わず、あの時決心して避難していなければ、入ってくる水を見ながら恐怖の中に居たと思います。今回は色々と勉強になりました。

(70代女性)



・浸水で気持ちが滅入っていましたが、知り合いや親戚など心配して駆けつけてくれ、人のありがたみを痛感しました。本当にありがたかったです。

(60代女性)

・避難所から家に帰って愕然としました。けれど、うちだけじゃないと…近所の方と声をかけ合い自分を奮い立たせていました。

(70代女性)

・高齢者世帯ですが、周りもみんな被害に遭っているの、できるところは自分たちで頑張っていました。が、近所の方が声をかけてくれ、ごみの収集にも手助けしてくれ大変助かりました。

(70代女性)

・濡れた家具や畳を見て一人ではどうしようもなかったですが、ボランティアの皆さんに来ていただき本当に助かりました。前を向いて頑張っていきたいと思います。

(80代男性)

・石川町には子供たちが毎年ハンドボールの合宿で来ていたため、今回の台風による被害の話聞き驚きました。石川町には思い入れも強く、少しでも役に立ちたく家族でボランティアに参加しました。1日も早い復興を祈っています。(岩手県矢巾町から参加の親子)



◎助け合える地域づくりを進めていくために、勉強会が始まりました。

「向こう三軒両隣の絆が大切」

北町行政区では、令和元年七月二十六日に住民約30名が参加し、「地域支え合い講演会」を開催しました。

「住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために」の演題で話を聞いた後、これから、五年後・十年後の自分の暮らしを想像し、行政区の役割や隣近所の支え合い等地域のつながりについて考えました。

人生一〇〇年時代と言われる中で、「助け合いや支え合いができる地域にしていきたい」と、今では希薄になっている「向こう三軒両隣」の絆が大切だと話が出されていました。



グループに分かれ意見を出し合う様子

各地区の福祉部会の活動の様子

沢田

沢田地区にも大きな被害をもたらした台風19号の災害は、「地域の支え合い」「助け合い」がいかに大切なことかを再認識させられました。

沢田地区の傾聴ボランティアでは、傾聴訪問の中で気づいた「利用者の困りごと」への対応や、ミニデイ（白鳥の会）などの情報を発信し、高齢者の方々の生活支援が少しでもできるような活動しています。また、ボランティアが逆に元気や情報を頂くことも多く、訪問によって地域を知ることにもつながっています。これらの活動が、今まで少しずつ進めている『地域支え合いマップ』の作成にも大きな力となっています。（沢田地区支援員 水野 澄恵）

中谷

中谷地区では、行政区単位で福祉関係者が一堂に集まり、傾聴対象者の検討を行っています。

今回の台風でも「地域のつながりの大切さ」を痛感しました。安心して暮らせる地域を築いて行きたいと思えます。（中谷地区支援員 吉田 真澄）

母畑

九月六日に第2回の福祉部会を開催し、75歳以上の一人暮らしの方の困りごとを調査することを決めました。その後「傾聴」について勉強会を実施しました。（母畑地区支援員 永沼 直好）

山橋

十月十五日に第1回の福祉部会を開催し、一人暮らしの方の困りごと調査の結果について確認し、困りごとをどうしているかなど、次に向けての話をしました。

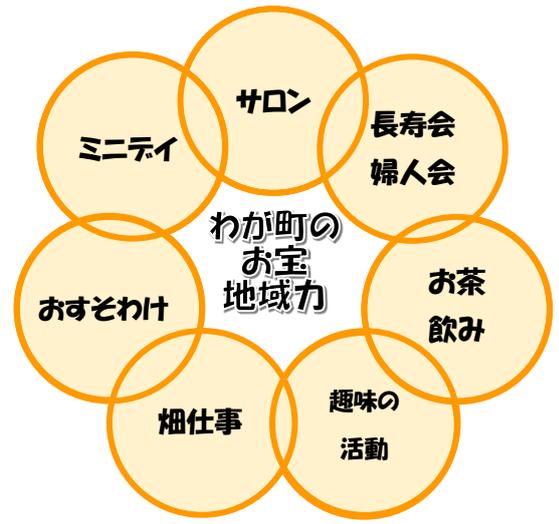
また、今回の台風で兎田地区が大きな被害を受け、改めて自然災害・水の怖さに驚き、日頃からの備えや隣近所の声掛けや助け合いの必要性を痛感しました。（山橋地区支援員 矢内 啓子）

野木沢

十月四日に第2回の福祉部会を開催し、各部会で行なったワークショップで出された意見について協議し、地域に必要なもの等について意見交換をしました。三月までに野木沢プランを策定します。（野木沢地区支援員 長谷川信光）

地域のお宝をご紹介します！！

地域のお茶飲み、サロンなどのつどいの場や隣近所の何げない助け合いの活動を『お宝』と呼んでいます。



お宝①

いちいの「とくし丸」を心待ちに！
週1回の移動販売車が来てくれるのを待っています。惣菜や食品などスーパーで売っているものを身近に買うことができます。一人暮らしで、なかなか買い物に行けない方のところに来てくれますが、ご近所の人も利用しています。



みなさんの地区にはどんな「お宝」がありますか？

お宝②

馬場町・松木下サロン

60代～80代の女性が集まっています。今まで利用していた老人福祉センターが被災（床上浸水）し、馬場町集会所を借りて11月7日から再開しました。

